

田中研新聞

第29号

2016年
1月1日発行

2016年1月1日号

甲南大学知能情報学部田中研究室 毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集長：岡田 航大 (B4)
編集委員：吉岡 一樹 (M2)

あけまして、おめでとうございます

平成28年、2016年が幕をあげました。私は、この3月で学部長の任期を終え、図書館長、学部長と続いた役職から久しぶりに解放される見込みです。その間、学生諸君には十分なサポートができた部分もありますが、今後はそれを取り戻すべく、研究・教育に力を注ぐつもりです。

さて、研究については、計画しているものが山積しています。その多くは、ブレミアプロジェクト関連で、私が学部長の時に学部として立ち上げたものから、当初はともかく学部の中の活性化を図るために、中身をあまり考えずに提案したものも多いのですが、採択されれば、言うまでもなく使えるものになければなりません。今年が正念場です。予定している研究をリストアップしますと、まず、何と言ってもKORO。図書館入り口に常駐を始めましたが、まだ機能が十分とは言えません。私の目標は、図書館に入ると、いきなりKOROがまわりついてくるような感覚。声を掛けられてそちらに向くと、自分のことをよく知っているような口ぶり。話しかけてくる。そこで、身振りや応答すると、機械に反応して、どんどん引き込まれていく。そういうロボットを思い描いています。ネットワーク化もできたので、今後は、遠隔のコンピュータを使った学習システムを作り、認識機能などを拡充していきたいと思っています。ラーニングコモンズビューアーは、ラーニングコモンズ（共同学習



スペース)の天井に設置したカメラからどんな取り込みで画像を、リアルタイムで処理し、利用者の動きをデータ化するシステムです。春にはプレバジョン

として、ともかくも動くものを公開したいと思っています。来場者カウンタは、今後、センサーを一つにして稼働できるようなシステムを考えています。ラジオ

体操採点システムは、今年、大きく変貌を遂げる予定です。今まで体操が固定だったのが、今後は、模範体操をキネクトで取り込み、わずかな作業でそれを模範として使用できるようなシステムを作るべく、計画中で

ありませんが、今後はそれを取り戻すべく、研究・教育に力を注ぐつもりです。

就職活動に正解は無い

学生の皆さんは、怒濤の就職活動も終わり、研究に勤しんでいる頃でしょうか。大手に就職が決まった人、中小に就職が決まった人、それぞれが、将来に不安を抱えている頃かと思えます。弱者ながら、今決まった進路に一喜一憂する必要は無いこと伝えたい。私の体験や考えを記したいと思います。それが、何かしら考えるきっかけとなり、これからの人生のヒントとなることを願っています。

私は、田中研究室にて修士課程を修了し、中小企業のメーカーに3年勤め、4年目に退職をして、現在、自営業を行っています。

就職活動では、他の大多数の方と同様に、大企業(特色のある技術力のあるメーカー)をターゲットに活動を行いました。面接では、数段階はパスできたものの、結果的に今の中小企業1社しか縁を結ぶことができませんでした。迷いながら、今の企業に就職しました。結論から申しますと、就職した会社に入社することができて良かったと思っています。

それは、決して会社勤めが楽だった訳ではありません。その会社の業種は、顧客の求める一品物の製品を

納めることでした。多くの中小企業は人材不足で、割り当てられた決まった範囲をこなす大企業と異なり、かなり多くの物事を、自分で考えてこなしていく必要があります。特に決まった製品ではなく、顧客の求める一品物を納める私の部署では、特に業務の幅が広いのです。SEとしての私の役割は、「製品PR、要件定義、仕様決定、ハード設計、ソフト設計、外注委託、ソフト製造、品質検査、現地据付、現地調整、アフターサービス」など、1つのプロジェクトの最初から最後までこなしていました。これを聞いて、たいへんな業務内容と共感してくれることと思います。辛いことを多く経験しましたが、同時に多大な経験値を得られたことが、私がこの会社で3年間勤めた誇りです。

大企業の強みは、安定した給与、福利厚生、充実した給付、窮屈な制度と想像します。中小企業の強みは、自分が考えたことを実行できる風通しの良さ、弱みは、安定しないことによる将来の不安でした。大企業に就職できた人は、自分の役割を理解し、会社にとって必要な人材になれるよう、一杯努力すべきと思います。

動計測に應用するシステムの作成を行うおとしています。須谷君の研究もそこに入ることができればと考えています。今考えている課題だけでもこれくらいあり、立ち止まっている暇はありません。今年も選考を受けませんが、まだまだ気持ちは若いつもりです。学生諸君と一緒に、大きな夢を実現していきたいと願っています。(田中雅博)

忘年会開催

今年も田中研究室で12月16日に忘年会を開催した。今年の参加人数は田中先生と、院生1人に4回生と3回生が共に6人ずつの合計14人で、JR摂津本山近くのThe甲南ハイボールにておこなった。このお店でやるからとバイトを休んで駆け付けてくれた3回生がいるくらいに、お酒と料理



(著者解説) 高浜知也
田中研究室OB 2012年修了修士論文「Diffusion and RLアルゴリズムを用いた画像の復元」

が美味しいお店である。実際、両方共かなり美味しかったので、行った事がない方は是非行ってみたい。普段あまりゆっくりと話しをする時間がない先生や、3回生との会話がほとんどだったが、日ごろの研究室ではあまり見れない各々の一面が見れて、個人的にとっても楽しかった。恐らく、3回生も4回生の面々のあまり見れない一面が見れて安心したのではないだろうか。また、個人的にはそういう場でもか開けない他者から自分への評価なども聞けて、少し気を付けようと思った悪いことや、これは自分の持ち味なのだと自信を持つことなどを再確認できた。こういうお酒を交えたうえでの交流の機会は他の人の違った一面を知るだけでなく、自分自身の違った一面も見えてくるので、私は好きだ。機会を設けすぎても色々難儀なので、ほどほどが丁度良いのだが、また、3回生は3回生で、これからの研究室の話も出てきていたので、それぞれ身の引き締まる思いになったのではないだろうか。少なくとも私の目からはそう見えた。それだけで、今回は大成功だったのではないだろうか。

唯一の失敗は写真を撮り忘れてしまった事で、私の文才では楽しかった様子がいまいちよく伝わらないと思う。これほど写真を撮りそびれた事を後悔した事はないあつという間の楽しい2時間だった。(岡田航大)

元)3年間勤めたメーカーを退職し、現個人塾講師・フリーのSEとして活動。仕事も趣味も充実した日々を過ごす。人生で一番楽しかった大学に顔を出しつつ、割のいい仕事と可愛い彼女を募集中。

田中先生書評

池上彰、佐藤優

「大世界史 現代を生きぬく最強の教科書」
文春新書

グローバル化が盛んに叫ばれている。つまり、世界標準大学の英語化である。世界のどこに行っても英語でのコミュニケーションが十分できないと、取り残されてしまうという感覚が席巻している。ほぼ日本人だけの学会、日本人だけの授業でさえ、英語でやろうという話が盛り上がりつつある。この書評は、本書全体の書評ではない。以下の部分だけに対する、私の感想文である(以下、p.226から引用)。「いまの大学は、どこもグローバル基準に合わせることに汲々として

ています。ギリシャ・ラテン古典学のある先生の話が特に印象的でした。この先生は国立大から早稲田大学に移ったところ英語の勉強が大変だとおっしゃっていました。4コマのうち、1コマは英語で授業しなければならぬからです。そこで、「英語で伝えた場合、日本語で伝える場合の何割くらい伝えられますか」と尋ねると、「3割くらい」と。では「学生の理解は日本語の時の何割か」と尋ねると、「2割くらい」と言います。3割×2割で6%、つまり、日本語の授業に比

語になると、「何の話をしていいのかれば、よしとする」というレベルになってしまいかねない。今の学生たちの英語力を見ると、専門教育を全面的に英語ですることはほぼ無理と考える。本書の名譽のために断っておくが、それは、大学の責任ではない。わかりやすく言えば、入学したときに少なくとも英検2級程度の英語力がないと、どんなに頑張っても専門教育を英語でできるようにはならないのではないかと、いや、10割に行かなくても、それをすべきたという今のグローバル化の主張であるが、それだけしかわかんなくていいほど学問の中身が軽はずいではない。日本語でも、言い回しを間違えると違う意味になってしまうことが多々あるが、英

語を正面から考えざるを得ない。中身なのか、それとも、世界に通じる語学なのか。そして、どちらを取るかと言え、当然中身というものが私の主張である。英語を母国語としている国では、英語を教える必要はほとんどないのだから、その時間を、いうまでもなく、中身に割いている。一方で、我が国の大学がそこで、中身を犠牲にするということに許されないと、英語ができてよとできまいと、大学教育・専門教育をしっかりとやって、身につけさせることは必要である。今の複雑な社会や学問を考えると、理解が容易な言語と日本語を使って、多くの日本人学生を理解させるという方がずっと重要なのではないだろうか。本書によると、非英語圏で、

自国語で大学教育ができる国は多くないようだ。どうも、その様子を見て、英語で大学教育をするのがグローバルというように言われているようにも思えるが、それは本末転倒だろう。日本が今まで高度に成長できたのは、母国語で高等教育ができていたからとも言える。大学進学率が50%を超えている現在、大学が一部のエリートだけを相手にしているいいわけはない。

学会でも、同様な状況がある。参加者は日本人がほとんどでも、英語で発表し、英語でディスカッションを求めるとオール英語化の学会がいくつもあつた。そこでは日本人の多くから理解と議論を奪っており、全く議論が盛り上がりつつない。多くの学会で会員数の減少が問題になっているが、ひ

とは、行ってもよくわからないという問題があるのではないだろうか。英語を訓練する場に化している学会に、若い人が入会する価値を見いださなければ、当然とすべきであつて、中身がしっかり議論できることがまず第一だろう。学会が、エリートだけの場になつていくことをもつと直視すべきだ。もちろん、英語での議論がしっかりと、国際的な場での日本人の存在を主張すべき人材の育成は必要であるが、それは、IEEなど、英語を母語とする国の学会で鍛えればいいのではないか。

いま、現実路線を行くオール日本語の学会が非常に活況を呈している。そこでの議論は盛り上がりつつあり、参加者の満足度は高そうである。(田中雅博)

とつは、行ってもよくわからないという問題があるのではないだろうか。英語を訓練する場に化している学会に、若い人が入会する価値を見いださなければ、当然とすべきであつて、中身がしっかり議論できることがまず第一だろう。学会が、エリートだけの場になつていくことをもつと直視すべきだ。もちろん、英語での議論がしっかりと、国際的な場での日本人の存在を主張すべき人材の育成は必要であるが、それは、IEEなど、英語を母語とする国の学会で鍛えればいいのではないか。

いま、現実路線を行くオール日本語の学会が非常に活況を呈している。そこでの議論は盛り上がりつつあり、参加者の満足度は高そうである。(田中雅博)

新年あけましておめでとうございます。私にとって2015年は思つく間もないとてもとても長い1年でした。

新年始まつてから2月が終わるまではアルバイトに全力投球してました。疲労で何度か倒れたのも今ではちよつと懐かしいです。3月からは就活がありまして、就活が始まつてから大学院進学が決まるまでは家庭の都合もあり、2月までは違ひ精神的にしんどい期間でした。その間もアルバイトがまったくなかったわけではありませぬ。大学院進学が決まると夏のオープンキャンパスの準備も本格的に始まり、プログラミングをほぼイチから勉強することにりました。こちらは今も悩みの種のままですが、夏のオープンキャンパスが終わつてからはKOROプロジェクトも本格的に始まり、それが同時に始まり、それと同時に課外活動にも大きな動きがありました。11月になり、KOROも課外活動も一旦落ち着いたと思は、最後のデカイ山である卒業論文が待つてました。こちらもプログラミング同様、現在進行形で頭を抱えています。ただ、自信をもって言えるのは、2015年は今までで一番充実していた一年でした(他の学生の言う「充実」とは少しズレていますが)。今年、自分の同期生や院2回生の方々が卒業するので、正直かなり寂しいです。早くも2016年一番の悩みの種になるかもしれません。

最後になりましたが、今年も田中研究室と、田中研新聞をよろしくおねがいします。(岡田航大)

卒業式に向けて

編集後記

気になる便利グッズ

第8回家電量販店の福袋

今回紹介するのは、1月1日から福袋だ。最近の福袋は1月1日〜1月3日の販売だけでなく、ネット通販での事前販売などもおこなっている。1月1日は実家に帰るといふ人や、1月1日から仕事を始めている同業他社の身からすれば嬉しいサービスだ。ネット販売を積極的にこなしている家電量販店の中でも、よく話題になるのはヨドバシカメラとビックカメラである。

ただし残念なことに、2016年版福袋のネット販売では、ヨドバシカメラもビックカメラもトラブルを起こしてしまい、ヨドバシカメラは別日販売、ビックカメラは販売中止という結果になってしまった。私も今年ヨドバシカメラのネット販売に母親と一緒に参戦し、母が欲しがっていた福

袋は購入できたものの、自分が欲しかったものは残念ながら購入することはできなかった。

ヨドバシカメラの福袋には毎年20〜30ほどの種類があり、価格帯は安いものでは5千円から、高いものでは5万円を超えるものもある。ただし、入っているものは大体絞り込むことができる。例えば『海外ブランドパソコンの夢(オプティクス付き)』という福袋は3万円(税込)で、海外ブランド、代表的なところをあげるとすれば、ASUSやAcer製のノートパソコンが最低限入っている。そこからオプティクスと大体の場合はおまけ(USBメモリやクリナー)が入っている。ただし注意が必要なのが、オプティクスでもMicrosoftと

は言っていないので、大体の場合はキングソフトあたりが入っている。パソコンではほかにも国内ノートパソコン版(5万円)やiPad版(3万円)、Android版(1万円)などがある。個人的にはブームが一旦去ってしまったWindowsタブレットの福袋が比較的良いものが入っているのではないかと。去年はSurface2が入っているものもあつたようだ。また、今年から、今話題のSIMフリー端末の福袋も販売をスタートし、こちらは5インチのもの1万5千円、4.5インチのものが5千円で販売する。カメラの福袋もあり、ミラーレス一眼(3万円)や、一眼レフデジカメ(4万円)と、新年から新しくカメラを始めようと思う人からすれば、手が届きやすい価格帯に収まっている。そんな中でも個人的に一番楽しいと思うのが『バラエ

ティ家電の夢』だ。昨年『バラエティ家電の夢』を購入したが、なかなか面白い商品が多かつた。スティームアイロン、歯間ブラシ、ネスプレッソ、シェイカー+@でタンブラーなどいくつか小物がついてきた。ネスプレッソは戦略にはまり、時間がなくてコ

ヒーを飲みたいときに利用している。シェイカーは中々使用する機会がないのだが、歯間ブラシやスティームアイロンは利用する機会が非常に多い。入っているものは『家電』と絞られた中で、なかなか中身の予想できないのが、この『バラエティ家電の夢』の楽しいところだ。ただ、全部使うものなの?と聞かれると非常に苦しいところではある。では実際インターネットで同じ商品を全部そろえたらいくらになるのかというところ、いやらしい計算をしたところ、大体3万円相当の商品が入っていたので、多少使わないものがあつても「まあこんなものか」となる。非常に上手い在庫処分の仕方である。更にはこの福袋当たり前のようにポイント加算対象商品の為、1万円の福袋を買っても10%は戻ってくる。実質9千円である。パソコンを購入したら2千円〜5千円はポイント加算されるため、も

シャブレットなどで保護フィルムやケース、ウイルス対策ソフトが入っていない、持っている場合はそのポイントを利用して周辺機器をそろえることもできる。

新しくパソコンを買おうとして、去年の自分と比べて、出来がいいので、自分自身への刺激にもなっている。果たして去年の自分がやって、戦力になれたか、正直自信がない。

この写真撮影モードが成功すれば、個人個人の自信にも繋がり、なおかつKOROのシステム充実にも貢献することになる。さらには自分の研究テーマに対してのよい事前勉強になるので頑張つてほしい。卒業式の日に、卒業生として写真撮影モードで、田中研究室のメンバーや他の学部学科の友達と写真を撮りに行くのを今から楽しみにしている。その時の写真は、是非田中研究室新聞4月号に載せたい。(岡田航大)



ラシ、ネスプレッソ、シェイカー+@でタンブラーなどいくつか小物がついてきた。ネスプレッソは戦略にはまり、時間がなくてコピーを飲みたいときに利用している。シェイカーは中々使用する機会がないのだが、歯間ブラシやスティームアイロンは利用する機会が非常に多い。入っているものは『家電』と絞られた中で、なかなか中身の予想できないのが、この『バラエティ家電の夢』の楽しいところだ。ただ、全部使うものなの?と聞かれると非常に苦しいところではある。では実際インターネットで同じ商品を全部そろえたらいくらになるのかというところ、いやらしい計算をしたところ、大体3万円相当の商品が入っていたので、多少使わないものがあつても「まあこんなものか」となる。非常に上手い在庫処分の仕方である。更にはこの福袋当たり前のようにポイント加算対象商品の為、1万円の福袋を買っても10%は戻ってくる。実質9千円である。パソコンを購入したら2千円〜5千円はポイント加算されるため、も

シャブレットなどで保護フィルムやケース、ウイルス対策ソフトが入っていない、持っている場合はそのポイントを利用して周辺機器をそろえることもできる。

新しくパソコンを買おうとして、去年の自分と比べて、出来がいいので、自分自身への刺激にもなっている。果たして去年の自分がやって、戦力になれたか、正直自信がない。

この写真撮影モードが成功すれば、個人個人の自信にも繋がり、なおかつKOROのシステム充実にも貢献することになる。さらには自分の研究テーマに対してのよい事前勉強になるので頑張つてほしい。卒業式の日に、卒業生として写真撮影モードで、田中研究室のメンバーや他の学部学科の友達と写真を撮りに行くのを今から楽しみにしている。その時の写真は、是非田中研究室新聞4月号に載せたい。(岡田航大)

シャブレットなどで保護フィルムやケース、ウイルス対策ソフトが入っていない、持っている場合はそのポイントを利用して周辺機器をそろえることもできる。

新しくパソコンを買おうとして、去年の自分と比べて、出来がいいので、自分自身への刺激にもなっている。果たして去年の自分がやって、戦力になれたか、正直自信がない。

この写真撮影モードが成功すれば、個人個人の自信にも繋がり、なおかつKOROのシステム充実にも貢献することになる。さらには自分の研究テーマに対してのよい事前勉強になるので頑張つてほしい。卒業式の日に、卒業生として写真撮影モードで、田中研究室のメンバーや他の学部学科の友達と写真を撮りに行くのを今から楽しみにしている。その時の写真は、是非田中研究室新聞4月号に載せたい。(岡田航大)

シャブレットなどで保護フィルムやケース、ウイルス対策ソフトが入っていない、持っている場合はそのポイントを利用して周辺機器をそろえることもできる。

新しくパソコンを買おうとして、去年の自分と比べて、出来がいいので、自分自身への刺激にもなっている。果たして去年の自分がやって、戦力になれたか、正直自信がない。

この写真撮影モードが成功すれば、個人個人の自信にも繋がり、なおかつKOROのシステム充実にも貢献することになる。さらには自分の研究テーマに対してのよい事前勉強になるので頑張つてほしい。卒業式の日に、卒業生として写真撮影モードで、田中研究室のメンバーや他の学部学科の友達と写真を撮りに行くのを今から楽しみにしている。その時の写真は、是非田中研究室新聞4月号に載せたい。(岡田航大)